

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：8月8日（木）
会 場：田幸コミュニティセンター
参加者数：18人

参加者の発言	市の発言	備考
未満児保育を始めていただいのおかげで、子どもたちが増えている。しかし、園庭は草が生えており、子どもたちが遊べる状況ではない。園児が増えたことによって、駐車場がとても狭い。先生たちも小学校の駐車場を借りて止めているなど、駐車場が混雑している状態である。	・田幸保育所のスペースを広げるためには、保育士の確保が必要であった。地元の皆さんに、保育士の情報を提供していただき、それがきっかけで、受入れ人数を拡大することができた。地域と行政と一緒に取り組み、保育所の定員拡大につながった。どのような工夫をすれば、スペースを活用できるのか調査・研究する。 ・田幸地区は、移住される方や、あるいは住宅を新築される若い方が多い。好循環の取組となっており、これを継続していただくことが田幸地区の活性化にも大きくつながっていく。引き続き、工夫しながら、問題解決に向けた検討をしていきたい。保育所の課題を共有して進めていく。	
田幸小学校には子どもたちの洋式トイレが少なく、子どもたちが困っている。	田幸地区の子どもたちは、日頃から、地域の皆さんや保護者の皆さんに見守っていただきながら、成長している。トイレの洋式化は、課題として認識している。トイレは子どもたちにとって重要であり、計画的に洋式化を進めている。学校数が多いため、優先順位をつけて、計画的に実施していく。	
放課後子ども教室を、コミュニティセンター横のほほえみ館から小学校のランチルームの一角に移設し、運営することになった。グラウンドが使えるなど便利になった面もあるが、部屋が狭い。調理場の空いたスペースを使用できると思っていたが、違っていた。	小学校に移設した放課後子ども教室は、地域の皆さんにご支援いただいている。子どもたちがしっかりと外で遊べることや、送迎のことも含めて、利用者の皆さんにとっては、以前よりはいい環境になっていると思う。ランチルームだけでは、なかなか難しい面もあると思うが、学校と連携して運営されている。今後も、田幸地区の子どもたちのために、お互いが協力しながら、子どもたちが過ごしやすい環境をつくっていきたい。	
通学路に樹木が大きく垂れ下がっており、子どもたちが歩く際に危ない。急に大きな木が倒れる、土砂が崩れる、柵が壊れるなどによって、道路を塞ぐこともある。通学路にある大きな木は、なるべく伐採してほしい。	通学路の樹木について、学校の外の河川側については伸びている部分がある。昨年は、グラウンドの樹木について要望があり、伐採対応をした。子どもたちが安全・安心に過ごすことが第一であり、これからも、情報共有させていただきながら、計画的に、あるいは臨機応変に対応していく。通学路の樹木については、持ち帰らせていただきたい。	【住民自治組織に回答】 年度初めに通学路危険箇所改善要望として田幸小学校から提出のあった箇所について、児童が横断歩道を目視確認して渡れるように、支障となっている木を伐採しています。追加の対応が必要な場合は、田幸小学校に情報提供をお願いします。
塩町中学校の通学路である、三次青陵高校付近の歩道が狭い。遺跡が出て、改良工事が途中で止まっている。早急に改良してほしい。	三次青陵高校前の道路は、文化財の発掘調査を見守るしかない。道路整備が遅れており、地元の皆さんにはご迷惑をかけている。予定どおり用地買収が完了し調査が終われば、速やかに改良工事をする。田幸地区を含め、市全体では遺跡が出ることが多い。引き続き、地元の皆さん、高校生や保護者の皆さんにご理解をいただく中で、整備を進めていきたい。	
塩町駅の踏切から三次青陵高校の正門までの道には、防犯灯が少ない。防犯のためのセンサーライトを付けるなど改善してほしい。冬になると真っ暗で危ない。	市は防犯灯の設置をしていないが、防犯灯に関する補助事業がある。町の防犯灯をLED化するための補助や、常会や住民自治組織が新規に設置する際の補助がある。地域のことは、住民自治組織の皆さんと課題を共有していただきながら、取り組んでほしい。庁内で共有させていただき、参考にさせてもらう。	
・田幸地区には、保育所、小学校、中学校、高校という教育施設が4つもあり、誇れることである。若者たちがここに住み、そして子どもたちを増やして、つないでいく必要がある。若者のための住宅をつくれたらと思う。田幸地区では、空き家が人気であり、入れない状態と聞いている。若者たちは住むところを探しており、何か支援があればいいと思う。今、私たちの世代にできることは、一生懸命の支援をしていくことである。 ・「田幸緑日」は、若者たちが企画をして、率先して準備をしている。若者たちが頑張ってくれているので、田幸地区へのサポートをお願いする。	—	
・田幸地区では集落支援員と地域おこし協力隊員が活躍し、新しい取組ができている。市に地域おこし協力隊の募集をしてもらい、大阪市から家族4人で田幸地区に来てくれた。また、まちづくり交通課や農政課の職員の方々に伴走支援していただき、田幸地区のまちづくりに関わっていただいており、感謝している。 ・市制合併20周年ということであるが、来年、公民館が廃止され、住民自治組織ができて20年となる。今までの歴史に基づきながら、公民館を基礎にしたまちづくりの方向性が決まった。今は、課題解決に向けて、農業、保育所から小・中・高があるという環境など、地域資源や人的資源を生かして、新しい取組などを行っている。まさに、共創の取組をしている。	農村RMOの取組の一環として、田幸地区のブドウ園を活用して、三次ワイナリーとブドウ園を巡るツアーがつくられた。ツアーのチラシを見て、参加したいという気持ちになった。今、体験型観光は注目されており、地域の資源をつなぎ、体験ツアーにすることは、すばらしい取組と捉えている。引き続き、伴走支援として、市が持つ情報を共有させていただきながら、一緒に取り組みたい。田幸地区から先進事例をつくることにより、面白い取組につながっていく。	
住民自治組織では、コミュニティセンターに持ち込まれた市広報紙の中に、地元の情報のチラシなどを折り込み、常会ごとに配布している。7月号はチラシが13種類あり、今まで経験した中で一番多い。少なくするため、市広報紙の本文にできるだけ記載して、あとは別のチラシを見てもらう、チラシを全戸配布ではなく手配りするなど、工夫できないか。例えば、「きりり通信」という三次市民ホールのチラシは毎月入るが、全戸配布ではなく、コミュニティセンターなどに配布して、市広報紙に折り込まない方法もあるのではないか。本紙のページを増やして、ダイジェスト情報を流すなどの工夫はあると思う。また、SNSを活用するなど、紙情報としてのチラシを減らす対策が必要である。	・「広報みよし」を多くの方に読んでいただくために、全戸配布をしている。デジタル化も検討しているが、デジタルに対応できない方もおられることから、これまで通り、「広報みよし」を市公式ホームページに掲載するなど、デジタルとアナログのハイブリットで進めていく。折込みチラシについては、工夫や改善の余地があると考えている。市内の各団体には、市民の皆さんに情報提供したいという思いがある。 ・市広報紙では、折込みチラシが多い月がある。市役所以外にも、「きりり通信」やもののけミュージアムのお便りなど、定期的、多くの方に知っていただくためには、各戸配布の市広報紙に折り込むことが効果的と思われる。結果的にそれが重なり、住民自治組織の皆さんに負担をお掛けしている状況である。昨年も、同様のお話をいただいているが、折込みチラシを減らすことはできていない。いただいた意見は、関係団体の皆さんにも伝えており、紙資源の削減につなげていきたい。	
空き家が増えている。また、土地や山が不要という方がいる。それを中国人などの外国人が手に入れた場合、市はどのように対応されるのか。	市は、市内の全ての民地を把握しているわけではない。現在、外国人が大規模な土地を購入したという情報は届いていない。しかし、中国人の富裕層が、日本の土地などを買い求めて、ビジネスに転用していると報道で聞いたことがある。抜本的な対策も必要と思うが、国の制度を調査しながら、乱暴な土地の購入をできる限り少なくする。公益の目的ではなく、個人の目的により、日本のいろいろなものを侵害するようなことがないように、国と情報共有していく。	

令和6年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：8月8日（木）

会 場：田幸コミュニティセンター

参加者数：18人

参加者の発言	市の発言	備考
三次の未来には、子どもが必要不可欠である。子どもたちが、「三次っていいな」と感じて育つことが重要であり、このことは、市外に出た子どもたちが三次に帰ってくることにつながる。自分もそうであった。今、私たちにできることを、私たちなりに頑張っている。「田幸縁日」を30代の大人たちで作り上げているが、私たちが楽しみながら取り組んでいる姿を子どもたちが見て、何か感じてくれると思い、今、一生懸命、頑張っている。	・自分たちでできることをやろうと具体的に動いていただいていることに、敬意と感謝を申し上げる。田幸地区にとっても、市全体にとっても、今の子どもたちが将来の三次を担っていくという思いには共感している。子どもたちが、ふるさとを大切にし、自分たちが協力し合いながら動いて、次の世代や地域をもっと良くしていこうとなってもらえるように、市教育委員会として、全力を尽くして頑張りたい。 ・三次の魅力や、子どもの頃に周りにたくさん支えてくれる人がいること、声をかけてくれるおじいちゃんやおばあちゃんがいることなど、今の環境と違うところに行って初めて気付くことが多いと思う。子どものうちから、地域の良さや地域内でのつながり、三次の魅力を感じる機会をつくることが重要であり、地域の行事こそが、子どもたちと高齢者をつなぐ大切なものである。コロナ禍があり、地域のイベントやお祭りが大切な要素であったと多くの方が感じている。その取組をしっかりと広げてもらうことは、行政として心強く感じる。引き続き、地域の魅力づくりのために汗をかいていきたい。	
・小学校のPTA会長をしており、学校に行くことが多い。子どもたちを見てみると、習い事などで忙しそうで、何かイライラしており、余裕がないように感じる。 ・田幸小学校は複式学級であり、理科や音楽などの授業に専門の先生がいる。理科の授業は、自分も受けたと思うくらい楽しく、自分の子どもは、その先生のおかげで、理科が好きになった。将来の選択肢が広がることにもつながると思う。中学校では専門の先生が授業をするが、小学校では担任の先生がほぼ全ての授業を担当しており、先生の負担はすごいと感じた。先生が楽しく授業をすることができたら、きっと子どもたちにも楽しさが伝わると思う。小学校の授業を楽しむため、専門的な先生や地域の方に入っていたことはどうか。これはコミュニティスクールの活動につながると思う。小学校の授業が大きく変わった三次をPRすれば、子育て世帯が増える要素にもなるのではないか。	・子どもたちに余裕がないように見えるのは、日々の生活が時間的に追われているのかもしれない。私たちが育った時代と今の子どもたちが育っている時代は、環境がかなり変わっている。いろいろな情報が入ってくる中において、常に取捨選択を迫られることが拍車をかけているのかもしれない。 ・今年度から、全ての小・中学校の教職員が参加する研修会を始めている。月に1回、半日早く帰らせるように小・中学校へお願いをしている。その代わり、先生たちが一生懸命頑張っており、子どもがもっと楽しめるような授業や学校にするための研修会である。本日の研修会では、夏休みということもあり、1学期の取組を振り返ってみた。子どもたちがワクワクして学ぶためには何が大切か、また、先生たちもワクワクしながら、学ぶことを一緒にできる環境について考える時間となった。これには答えがあるわけではない。 田幸小学校でも、9月から変わる部分もあるのではないかと期待している。複式学級であり、音楽や理科などでは専門教員を市費で任用して、授業している。教師に専門性があることは、子どもたちにとって魅力ある授業につながる。一方で、先生も完璧ではなく、わからないことを子どもたちと一緒に考えることも大切である。子どもたちがしっかりと力をつけることが目的であり、自分たちで学習する力をつける工夫もしている。子どもが「学ぶことが楽しく、大人たちのようになりたい」と思える取組につなげたい。これからも、保護者や地域の方に、できるだけ学校に入っていたくとも、学校からも外に出て、様々な教育活動をさせてもらいたい。	
トイレの洋式化は、PTAとしてずっと要望してきた。予算上の課題やほかにも検討すべき問題があることは理解しているが、いつも同じ回答である。しかし、学校は、子どもたちが週に5日間、1日約8時間過ごす場なので、最低限、苦痛にならないようにしてほしい。今の時代は暑いことから、体育館にクーラーを設置するなど、優先順位を上げて考えてほしい。	施設面については、引き続き、努力していく。	
7月19日、田幸小学校のPTAで、学校給食センターの試食会に行った。給食はとても美味しかった。今までは、田幸小学校には調理場があり、今年9月に給食センターが稼働した時は、子どもたちに戸惑いがあった。学校側が、給食センターと連携をよく取ってくれており、現在、良くなってきたと感じている。試食会に参加して、調理員の方々から、いろいろな説明や生の声を聞かせてもらった。どのような思いを持ってやっておられるのか、どのような工夫をしておられるのかなど、直接、知ることができ、感謝の気持ちを抱いた。何も知らずにあだこうだ言うのではなく、保護者側も知る努力をするという気持ちは大切である。全保護者に伝わればいいなと思う。興味がある方は行くが、そうでない方へのアプローチが重要である。給食センターの紹介動画は、結構心に響き、生産者の顔を見ることもできた。その動画を学校で放送する、あるいはビオネットで流すなど、動画について知らない方が自然に見ることができるようにして、市民の皆さんに見てほしい。	PTAで、給食センターに来ていただき、感謝している。今、YouTubeで動画も見ることができ。また、教育委員会として、できるだけ紹介ができるように努力したい。例えば、給食センターと田幸小学校とをオンラインでつないで、調理員や栄養士、あるいはセンターの職員から、「みんなの給食は、たくさんの食材を準備してもらい、それが調理されている」という話ができるように準備している。また、いろいろな機会を通じて、できるだけ多くの人に見ていただけるよう努めたい。	
子育て支援は、国の仕事であると言われるかもしれないが、力を入れて取り組んでいかなければならない。今は、少子高齢が当たり前である。結婚をされている人の負担が増えている。結婚をされている人に、子育て支援をするから、もっと子どもをつくるようにということは違うのではないか。その前段階でしないといけないことがあると思う。結婚をされる人を増やすことである。結婚は嫌という人をゼロにする。結婚したいと思う雰囲気をもつにつくるのか。今、マッチングアプリによって結婚をされている人も結構おられるので、行政としてもっと力を入れてほしい。	・国に任せる部分と、地域も一緒になってやらなければならない部分とがある。子育て支援は、三次市も実施してきているが、生まれた子どもに対する支援であり、少子化に対する支援ではない。結婚するカップルが少なくなっていることが、少子化の大きな要因と思う。結婚している方は、複数の子どもを持たれていることが多い。結婚したくなるような社会になれば、もっと結婚して、家庭を築く方も増えるのではないか。今、幸せの価値というものが多様化しており、結婚が全てとはいえないが、結婚して、子どもを産んで、子どもを育てることも素晴らしいと伝えることは大事と思っている。 ・若い世代はマッチングアプリを使っているが、私たちの世代は、マッチングアプリに馴染みがなく、直接会い、いろいろな話をして、交流を深めて、そして、時にはつき合ったりするということが当たり前であった。人とのつき合い方も多様化しつつあると感じている。	
若い頃、派遣社員であった。昔は、派遣社員といえばプログラマーなど特殊技術のある人であったが、今はアルバイトである。必要な人員を必要な時に必要だけ雇う。この結果、給料が少なく、結婚できない。これは行政を超えて国の責任である。	日本では長い間続いていたデフレから脱却しつつあり、インフレ社会になってきた。デフレに慣れすぎており、物価が上がることを日常生活で急激に受入れることができず、いろいろな意見が出てくると考えている。インフレは決して悪いことではなく、もっと力強い経済をつくるという意味において、ある程度は大事であると感じている。インフレの状況になれば、賃金の上昇し、今年は、大きな上場企業で過去最高の賃金アップであった。ただし、市内においては中小零細企業が多いことから、賃金の上昇率は高くなく、格差がある。賃金と物価水準が徐々に合っていくことになれば、派遣職員の賃金も改善されていくのではないか。市役所の中には臨時職員の方が多く、市長に就任してすぐに、会計年度任用職員制度に移行して、今は賞与が出るようになった。引き続き、みんなが幸せを実感できるような取組をしていく。	